

GEIBUN GALLERY project

地域連携プロジェクト 駅地下芸文ギャラリー

富山大学芸術文化学部教授 武山良三



1. プロジェクトの経緯

高岡はかつて県西部の拠点都市として周辺地区住民が「お洒落をして出かける街」になっていた。昭和44年に現 JR高岡駅に併設して開業した高岡ステーションデパートも北陸で初となる地下商店街として賑わいを見せた。しかし、昭和50年代になるとモータリゼーションの進展と共に急速に都市の郊外化や中心市街地の衰退が進み、近年では地下街でも空き店舗が目立つようになり来街者の満足度も低下した（下記グラフ1参照）。

こうした状況を受け、高岡市は高岡駅前地下街賑わい創出事業（がんばる商店街支援事業）を立ち上げ、その中で「大学とのコラボレーション事業」を事業目標に掲げた。

これは、「大学生を商店街に」を合い言葉に、富山大学芸術文化学部の学生が中心市街地で滞在する仕組みを創出するため、アトリエやチャレンジショップなどの施設整備や学生による中心市街地賑わい創出活動を支援するというものである。

高岡市からの協力要請を受けた芸術文化学部では、研究部プロジェクト推進会議に検討チームを組織した。事業内容や運営方法について検討を重ねた結果、芸術文化学部の学生や教員の作品展示や、地元企業とのコラボレーションによる実験的商品を販売するギャラリーを設置することを決め、2007年4月1日、同地下街の空きスペース3区画を改装して「駅地下芸文ギャラリー（以下芸文ギャラリー）」をオープンさせた。

2. 運営体制と展示状況

芸文ギャラリーの運営は、協同組合高岡ステーションデパート、株式会社高岡ステーションビル、国立大学法人富山大学芸術文化学部、未広開発株式会社、高岡市、高岡商工会議所、ほかが構成員となって「高岡駅前地下街賑わい創出実行委員会」を組織し運営方針を決定し、具体的な展示企画および運営については専任の職員と高岡市担当者1名、芸術文化学部教員3名で構成する「駅地下芸文ギャラリー運営協議会ワーキング（以下WG）」において行っている。

4月の開廊から11月までに開催した企画は12件で、内授業の成果発表が4件、学生自主企画が3件、教員の作品発表が1件、芸文ギャラリースタッフによる企画他が4件になっている。（25ページ一覧参照）

3. 学生参加

学生参加の展覧会についてはプロジェクト方式とし、核となる学生がプロデューサーとなってメンバーを募り企画案を作成、WGの承認を受けて実行に移されるようになっている。

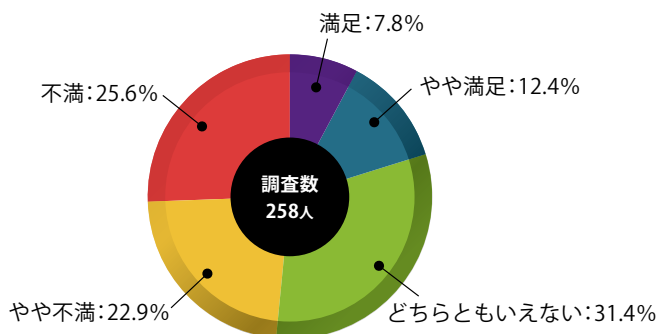
「Tumbler Exhibition」では、タンブラーを活用したエコアクションを提案、学生数十名がオリジナルのデザイン画を作成し計80点が展示された。即売も実施したが評価の高かった3作品3点については各20個を作成し常設・販売することになった。

グラフ1
高岡駅地下街に対する満足度

資料提供：富山大学地域づくり・文化支援センター

調査日：平成19年2月17日～18日
データ収集方法：2人1組、対面でのヒヤリング方式

データ収集場所：高岡駅地下街、ウイング高岡、大和百貨店高岡店前



opening exhibition
Remain in "T"
by haruki nishijima
2007.4.1~5.6



西島治樹：媒体芸術家、富山大学芸術文化学部講師。1971年浜松市生まれ。東京藝術大学大学院修了後、IAMASでメディア・アートを学ぶ。'01年、プリ・アルスエレクトロニカ（オーストリア）にてディステインクション、VIDA4.0（スペイン）グランプリ受賞。主な展覧会、'02年「エモーショナルアートフィシアル」展（ブラジル）、'03年「Art In Output」展（オランダ）、「Break2.2」展（スロベニア）など。



Remain in "T" では、芸文ギャラリーが工事されていく様子がそのまま映像作品に仕立てられた。取り壊された壁と同じ位置に設置されたスクリーンに移された映像と音声が過去を示すと共に、映像と現実世界に共通する花が時の儂さを暗示する。タイトルに付けられた"T"に「高岡」「チューリップ」「タイム(時間)」といった意味が込められている。

opening event
2007.4.21



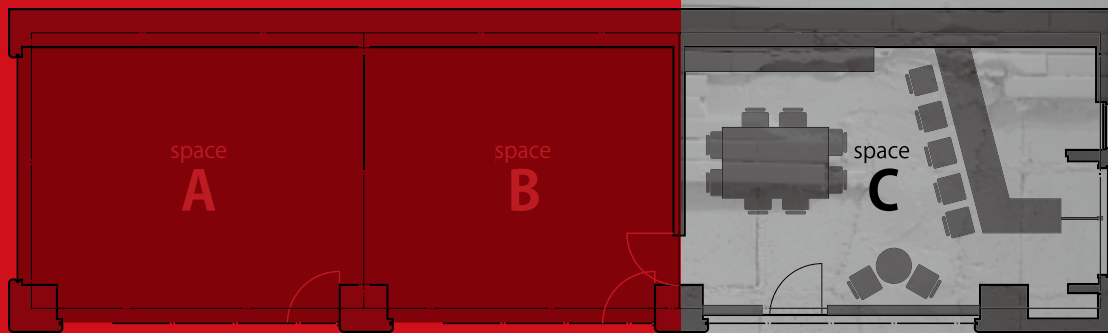
gallery talk 1

talk1 では、オープニング展示を行った西島治樹に作品制作に参加した学生・牧修平、松田恵里子、多保田ゆかりがパネラーとなって制作にかけたそれぞれの思いやこだわった点などを紹介した。



gallery talk 2

talk2 では、高岡のものづくりを担う若手・高田 晃一（フィオリキアブランドジャパン ジェネラルマネージャー）、折橋 祐紀（折橋治吉商店）、前田 智恵（紳士洋品雑貨企画卸 株式会社 kley デザイナー）、渡辺 雅志（富山大学芸術文化学部講師）が、高岡の問題点などを熱く語った。



学生が進めるプロジェクトの企画会議
学年やコース混成で行われている



「Tumbler Exhibition」展
タンブラーに入れるデザイン画を募集
学部で評価展示を行った後に優秀作品を芸文ギャラリーで展示



「くまプロ」展
端切れの募集から縫いぐるみ制作まで
すべて学生が自主的に行った

また、「くまプロ」は、富山大学のキャラクターとして提案しているくまをモチーフに縫いぐるみを作成し展示した。ここでも環境をキーワードに学生から不要になった布を集めて制作された。

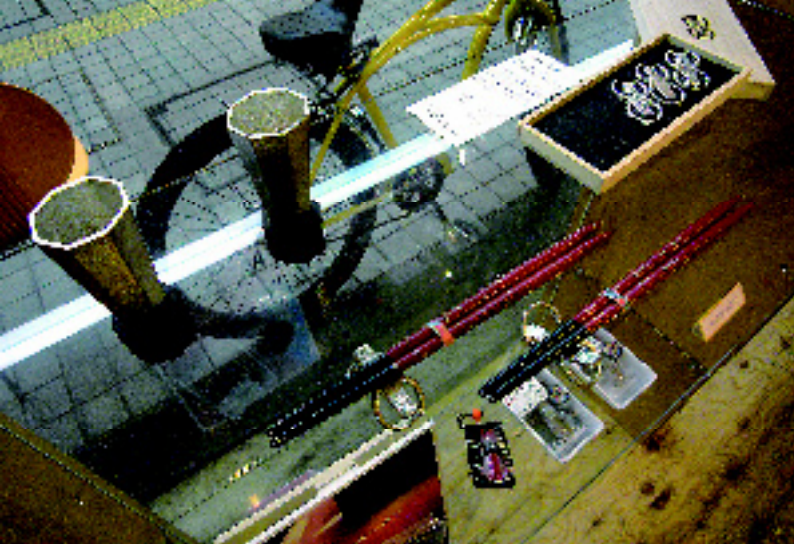
この他学生が企画・運営するイベントとして「Joint Art Battle（以下JAB）」がある。これは制限時間内に与えられた画面にライブペイントを行う競技で、2006年は15チームが参加、作品は芸文ギャラリーのプレ展示としてまだ内装前のスペースで展示された。ライブペイントの全国的な大会になることを目標に2007年も12月に開催予定である。

4. 開設の効果と今後の課題

芸文ギャラリーの進出を機会に雑貨販売やフィギュアショップなど若い世代をターゲットとした店舗が4軒、相次いでオープンした。2007年11月には地下街最大の空きスペースとなっていた区画にライブハウスができるなど、空き店舗対策という点では大きな成果があった。また、JABの開催や隣接するゲームセンターの学生による改造計画案作成などイベントやプロジェクトなども継続的に行われるようになり、学生に実践的な学習機会を提供すると共に、地域において芸術文化学部の存在感をあらためて示すことができた。

しかし、イベント開催時には賑わうものの日常の来訪者数や地下街通行者数については大きな変化は無く、集客について課題が残されている。展示で人を呼ぶには限界があり、今後は学生が日常的に立ち寄れるような機会の創出や市民に対して芸術文化学部のリソースを活かした小教室を実施するなどの検討が必要である。

高岡市の事業期間は2年間でありその後の存続も大きな課題である。現在、地域関連商品の販売も行っているが、運営形態からも積極的に販売することが難しい状況にある。いかに経済的に自立させていくか、それが芸文ギャラリー継続の鍵を握っている。



駅地下芸文ギャラリー
Open: 11:00 - 19:00 (木曜定休)

高岡ステーションビル地下街
高岡市下関町 6-1 〒933-0021
Tel. & Fax. 0766-25-6078
E mail gg_info@rice.ocn.ne.jp
URL <http://www.geibungallery.jp>

常設展示の他に教員と地域企業とのコラボレーション作品や富山県が推進する TOYAMA PRODUCTS の展示販売も行っている。



授業成果展示「Eco-Friendly Action」展
身近にできるエコ活動を提案



「地場産杉を利用したインテリア・家具の提案 2005 - 07」展
3年間にわたる産学連携授業で制作した成果品を発表



シアター g × 大串潤也 (映像作家)
作品上映後学生を交えたトークショーを開催

企画展示一覧

- 4.1 ~ 5.3 Remain in "T"
by 西島 治樹

- 5.8 ~ 5.22 ten-batsu-ten vol.1
by 富山大学高岡短期大学部産業造
形学科・専攻科

- 5.28 ~ 6.11 Tumbler Exhibition
by Tumbler Exhibition 実行委員会

- 6.29 ~ 7.10 ten-batsu-ten vol.2
by 富山大学高岡短期大学部産業デ
ザイン学科・専攻科

- 7.13 ~ 7.24 太陽展
by 富山大学芸術文化学部「ラボ部」

- 7.27 ~ 8.7 くまプロ
by くまプロジェクトチーム

- 8.10 ~ 8.20 「地場産杉を利用したインテリア・
家具の提案 2005 - 07」展
3年間にわたる産学連携授業成果発
表会
by 富山大学高岡短期大学部 / マイス
ター事業協同組合

- 9.3 ~ 9.18 geibungallery コレクション展 A -
こっぱみじん -

- 9.21 ~ 10.2 Eco-Friendly Action 展 - 身近にでき
るエコ活動の提案 -
by 富山大学芸術文化学部産業造形
学科

- 10.12.10.22 シアター g × 大串潤也 (映像作家)

- 10.26 ~ 11.6 PARERAGON - パレルゴン -

- 11.16 ~ 11.20 あさのひろし。(歩いて日本一周は
じめました) 富山〜近畿中国九州沖
縄四国東海〜東京前篇ザベストアル
バム高岡の巻

